

第5回「長野県公共交通活性化協議会佐久地域別部会」議事概要

日時 令和5年11月7日(火) 13:30～15:10

場所 佐久合同庁舎 401号会議室

1 会長あいさつ

○佐久地域振興局

・佐久地域では、小海線利用促進をテーマに、県民参加型予算により事業提案の募集を行い、9事業の応募をいただいた。後日審査会を経て事業選定を行い、その結果についてはお知らせする。本協議会の委員にも小海線の利用と活性化にご協力をお願いしたい。

・前回会議では、今年度に県が策定する「長野県地域公共交通計画」の佐久地域編の「素案」について、ご意見をいただいた。本日はその議論を踏まえた「案」についてご意見をいただきたい。

2 会議事項

(1) 長野県地域公共交通計画(素案)の説明

●資料説明

○交通政策課

【資料1】長野県地域公共交通計画(素案)について

【参考資料1】長野県地域公共交通計画(素案)

(令和5年9月13日に開催した第5回長野県公共交通活性化協議会(全体会議)で示した長野県地域公共交通計画の素案について説明)

・施策の推進にあたっては、市町村や事業者のご協力をお願いしたい。

・社会情勢の変動もあるため、計画を作って終わりではなく、施策を実施する中で計画を見直していく。今後も、地域別部会において、PDCAサイクルのC(チェック)及びA(改善)の部分について役割を担っていただきたいと考えている。

(2) 地域編(案)について

(3) 令和6年度の地域編の更新スケジュール、作業内容の説明

●資料説明

○SCOP

【資料2-2】地域編(案)

(第4回佐久地域別部会で示した素案からの主な変更点を説明)

・地域拠点として中込、白田、望月を追加した。

・地域間連携軸として佐久御代田線、久保通線を追加した。ただし、ここに載せたことにより県の支援が必ず受けられるということにはならないと考えている。地域の皆さんで、地域間連携軸としての十分な役割を果たせる水準に引き上げていただければと思う。

【参考資料2】県内の主な観光地(案)

・観光地へのアクセスの在り方については、これから方針が決まっていくところ。どの観光

地とアクセスをつなぐかについては本資料に記載している。観光地利用者統計調査や中小企業地域資源活用促進法で位置づけられた県内観光資源等から、1市町村につき一つ以上掲載できるよう抽出している。観光地へのアクセスの確保については県が主体ではなく、各市町村が担っていくということになると思う。

○佐久地域振興局企画振興課

【資料2-1】第4回佐久地域別部会の意見のフィードバック

【参考資料3】第4回佐久地域別部会議事録

(第4回佐久地域別部会での意見に対する事務局対応案について説明)

・久保通線については、地域間連携軸として位置付けたが、10月から減便となっているため、地域間連携軸として適切か、現況の説明を含めご意見をいただきたい。

○交通政策課

【資料3-1】今後の地域別部会進め方(イメージ)

【資料3-2】次年度のアウットプット(イメージ)

・「木曽地域において目指す交通体系」の「設定する水準」等を参考に、令和6年度は品質保証の具体化を議論していただきたい。その際、官民連携による役割分担を考えていただきたい。令和7年度以降は効果の検証、施策の改善を行っていただき、PDCAサイクルを回していただきたい。

●意見交換・情報提供

○小諸市

・高速バス(高峰高原行き)の考え方については承知した。高峰高原は観光地で拾っていただきたい。

○佐久市

・前回地域別部会の意見反映いただき感謝。

・久保通線については東御市が主体となって運行している。

利用者が減少している状況から、令和5年10月から減便しているとともに、これまでの運行会社が継続できなくなり、運行会社も変わった。また、バス車両もダウンサイズし、ハイエース型で運行している。

その一方で、久保通線を使う長野西高校望月サテライト校は、年々入学者数が増加している。東御市方面からの通学者は今後も増えていく可能性があるため、地域間連携軸への設定については、その辺りも加味していただきたい。

・佐久御代田線は、便数は少ないが満席の状況で運行している。佐久市内に通う高校生の需要が大きい。生徒が増えてくれば需要が高まるので、地域間連携軸への設定について前向きにとらえていただきたい。

○佐久穂町

・計画について特段の意見はなし。

○川上村

・小海線（B 軸）の駅に接続する、村内を走る村営バス（E 軸）について、県の施策の対象外となることを懸念している。地域公共交通は鉄道やバス等と連携の上で成り立っている。

○南牧村

・前回、野辺山を地域拠点とするよう要望したが、観光地として整理するという事について承知した。

○軽井沢町

・交通系 IC カードやその他のキャッシュレス決済等様々があるが、導入されていない公共交通機関が多くある中で、県主導で方向性をしっかり出していただければ、事業者としても行政としてもやりやすいと考える。

○御代田町

・佐久御代田線を地域間連携軸として盛り込んでいただき感謝する。1 日 1 便だが、重要な路線となっている。高校生が多く乗っており満員状態。高校生のためにも維持していききたい路線である。計画に位置付けられたからと言って財政的支援が保証されるわけではないと説明があったが、町としても工夫しながら、佐久市及び千曲バスと協力して取り組みたい。

○立科町

・資料 2 - 2 の 1 - 3 では観光地として「白樺高原」と記載されているが、参考資料 2 の観光地としては、立科町は「東白樺湖・白樺湖、蓼科牧場」となっているので、整合性が取れるよう調整をお願いしたい。観光地利用者統計調査で立科町は「東白樺湖・白樺湖、蓼科牧場」、茅野市は「東白樺湖・白樺湖、蓼科、車山高原」となっているとのことだが、立科町としては、町内の該当エリアを一体として「白樺高原」と捉えている。

○佐久地域振興局

・佐久市から久保通線に関連し、ご発言いただいた。東御市も加わった形で佐久地域定住自立圏構想ができていく点も踏まえ、地域間連携軸として考えていかなければならない。

・川上村からいただいたご意見について、市町村内で完結するものは圏域内連携軸（C 軸）や地域間連携軸（D 軸）に位置付けられないが、観光地へのアクセスに必要なバスという考え方で来年度以降議論していくことは可能と考える。

・立科町からいただいたご指摘については、参考資料 2 については「観光地利用者統計調査」の表現を引用している。これはあくまでベースとなる資料なので、今後、具体的な観光地となれば表現を適切な形に修正していく必要があるかと思う。

○交通政策課

・川上村ご指摘のとおり、鉄道とバス等が一体となって交通ネットワークを形成しているため、村営バスも重要なものと認識している。その一方で、誰が担うのかということになれば、村単独で担っていただく部分もある。具体的に誰が支えていくかは今後議論という部分もあるかと思う。

・軽井沢町からキャッシュレス決済の話があったが、当協議会としては県内の鉄道・バス・タクシーで交通系 IC カードを使えるようにすることを目標にしている。その一方で、佐久や上田地域では TicketQR が使われている状況で、最近はクレジットカードのタッチ決済も広がっているおり、様々な決済手段が使えることが望ましいと考えている。ベースとして、交通系 IC カードが使えるようにということで、バスへの補助金を制度化している。鉄道については個別に相談しながら対応している、

○JR 東日本

・県民参加型予算では小海線をテーマ選定いただき感謝。

・昨日から平日の 10 日間、小海野辺山間で枕木の交換作業のため、日中帯工事をしている。あらかじめ周知はしているが、紅葉のシーズンということもあり、知らずに小海線を使おうとした方も少なからずいらっしゃった。お住まいは、新潟、東京・八王子、長野管内等様々で、小海線を愛してくださる方がいらっしゃることを再認識した。

・再構築協議会の話もあったが、まずは小海線統括センターのできることを地域の皆様と一緒にやっていきたいので、ご協力をお願いしたい。

・資料 2-2 の 1-2 で「川上村や南牧村では、JR 小海線を利用し、山梨県への高校に通学する生徒も見受けられます。」と、ここだけお客様の特性、利用実態が載っているが、なにか意図や背景があるかお聞きしたい。

○しなの鉄道

・6月の脱線事故についてはご迷惑をおかけした。安全対策を徹底するため、県を中心に予算をつけていただき、枕木を PC 枕木に更新している。

・御代田町の協力をいただき、御代田駅の待合室を改修し、Wi-Fi 等を整備し 9 月 30 日にオープンした。地域の交通結節点、地域のコミュニティの拠点として、よりお客様に利用していただけるよう拠点づくりを行った。

・小諸市に協力いただき、小諸駅前のバスとタクシーの乗り場の整備を実証実験で実施している。

・晴れ星を貸切列車にして、11 月 11 日に『ほろ酔い飲み比べ列車』を実施する。

・また、JR 東日本、西武ホールディングス、軽井沢町により MaaS「回遊軽井沢」を実施している。当社としても協力し、一部の区間で、スマホで列車に乗れる取組を期間限定で実施している。

・引き続き、交通ネットワークを維持するため取り組んでいきたい。

○千曲バス

・貸切・高速バスは需要が回復傾向だが、乗務員が足りず、供給が追い付かずお断りする状

況。さらに、労働時間規制に係る 2024 年問題もある。

・市町村等の移住推進部署と連携し、移住者を対象にバスの乗務員の仕事の紹介をさせていただくなどして、運転手確保にも取り組みたい。

○長野県高等学校 PTA 連合会東信支部

・鉄道やバスの便数が増えれば、通学に係る親の送迎の負担は軽くなる。

・小諸商業高校の生徒の保護者としての立場から言うと、小海線について、朝は良いが夕方の本数が少なく、間が空くとその時間に送迎してもらうことになる。それも考慮してもらえればと思う。

○SCOP

・JR 東日本のご指摘について、特段の意図があって利用者の特性を記載したものではないと思われる。他圏域の記述と調整の上で、内容を検討したい。

○佐久地域振興局

・千曲バスからいただいたご意見について、移住についても当課（企画振興課）で実施している。今年は教育移住にスポットを当てたが、仕事についても積極的にアピールしていきたい。

・また、高校生の通学に係る親の送迎の負担が近年重くなっていると認識している。

・そのほか、追加意見があれば来週中にご意見をいただきたい。今後の修正については、事務局一任をお願いしたい。

・計画については来年度もアップデートが必要であるため、来年度も委員の皆様にはご協力を引き続きお願いしたい。

（４）オープンデータ整備に関する相談窓口の設置（情報提供）

●資料説明

○交通政策課

【資料４】オープンデータ整備に関する相談窓口の設置について
(問合せ窓口の対応内容等について説明)

○佐久地域振興局

・インターネットで経路検索等ができるようになれば利用者増加も見込めるため、ぜひオープンデータ整備について進めていただきたい。

（５）各種アンケート結果について（情報提供）

●資料説明

○交通政策課

【資料５】高齢者アンケート結果について

【資料6】高校生アンケート結果について
(アンケート結果について説明)

○佐久地域振興局

- ・自家用車で送迎してもらっている高校生は、「家族などの通勤のついでに送迎」が約 22.8%で、それ以外の回答者の保護者は通学の送迎のために自家用車を運転しているということ。
- ・アンケート結果を踏まえ、公共交通機関について、改善可能な点は改善をお願いしたい。